

「現地メディア向けプレスツアーを行いました」

11月26日から3日間、現地メディア向けプレスツアーを実施したところ、新聞・テレビ8社11名のジャーナリストとカメラマンが参加しました。このプレスツアーは、日本の開発協力が現地メディアで取り上げられる機会を増やすとともに、モーリタニア・イスラム共和国の政府関係者、知識層およびモーリタニア国民への情報発信を強化するために行ったものです。

プレス一行は、ヌアディブ市を訪れ、各プロジェクト（平成9年度無償「国立海洋調査研究所（IMROP）水産資源調査船整備計画」、平成24年度草の根・人間の安全保障無償「地雷除去機材供与計画」、平成13年度無償「国立水産海技学校拡充計画」、平成7年度無償「水産調査船建造計画」、ヤマハ発動機（株）民間技術協力「5トン型FRP漁船製造計画」、平成24年度水産無償「ヌアディブ漁港拡張整備計画」）の視察を行いました。

「地域住民を地雷の脅威から守り、開発を促進」

1日目は、草の根支援により供与した地雷除去機材を、案件終了後も有効に活用するため、被供与団体からモーリタニア政府に譲渡する引渡式の模様を取材しました。同支援は、1975年から1978年まで続いたモーリタニアと西サハラの間紛争時、国境地帯に埋められた地雷の除去に必要な機材を供与した事業であり、地域住民を地雷被害の危険から保護するとともに、同地域を開発することを目的としていました。引渡式では、機材を使用した地雷除去デモンストレーションが披露された後、各メディアは関係者に対し熱心にインタビューを行っていました。



地雷除去実施関係者の説明を熱心に聞き取る取材陣。



地雷除去機材のデモンストレーション。

「日本式研修で水産人材を育成」

続いて、国立水産海技学校（現海運学校）を訪れ、過去、日本人専門家が技術指導を行った同校水産加工コースや船長教育コースの説明を受けたり、実際に海に飛び込んでの救命活動を視察したり、さらには様々な魚の加工実習をする研修生を目の当たりにし、我が国が行った支援の具体的なイメージをつかんだ様子でした。



記者からのインタビューを受ける海運学校関係者。



解体した魚で使わない部位はない、と水産加工の実態を説明する研修生。

「人づくりを通してモーリタニアの水産産業を発展させる」

2 日目には、「水産調査船建造計画」フォローアップ協力完了式の取材が行われました。同計画は、1997 年に海洋資源研究所（IMROP）に対し水産資源調査船 2 隻を供与することで、モーリタニア人自身による独自の水産資源調査及び有効活用を支援する事業です。同フォローアップ協力では同 2 隻の修繕、メンテナンス及び技術移転を目的とした日本人専門家の派遣が行われました。



水産調査船を背景にスピーチをする吉田潤大使を取材する報道陣。

次に訪れたヤマハ発動機（株）民間技術協力「5 トン型 FRP 漁船製造計画」は、[平成 26 年 1 月に安倍総理大臣がアフリカ連合（AU）総会における政策スピーチ](#)でも紹介されましたが、右計画によりモーリタニア人が初めて沿岸漁

業向け漁船を製造できるまでになりました。参加したプレスは、モーリタニア人技術者によって建造された船と、自信に満ちた技術者の説明を受け、感銘を受けた様子でした。



5トン型 FRP 漁船の製造過程を実際に乗船して取材。

「ヌアディブ漁港拡張整備計画」竣工式には、アブデル・アジズ大統領及びハッターミン首相他複数の閣僚が出席しました。同竣工式では吉田大使の他、ヌアディブ市長、ダフ・ヌアディブ経済特区総裁がスピーチを行い、同拡張計画は水揚げの効率性と安全性の向上、また、漁港周辺労働者の環境改善を図る事業であるとして、日本人及びモーリタニア人工事関係者への謝意が述べられました。前日に同工事関係者に対して行ったインタビューが功を奏し、後日、各 TV 局、ラジオ、新聞等で同竣工式が大々的に取り上げられました。また、同竣工式後に、吉田大使へのインタビューを実施したところ、水産分野に重点が置かれた日・モーリタニアの経済関係や日本企業のモーリタニアに対する投資の可能性等に関する活発な質問が行われました。



ヌアディブ漁港全体図



パネルを用いて丁寧に事業内容をプレスに説明する日本人工事関係者



竣工式でスピーチをする吉田大使

なお、ツアー3日目と重なった28日の独立55周年記念祝賀式典パレードには日本が提供した消防車も参加し、その模様が各種メディアで報道されました。



独立 55 周年記念祝賀
式典パレードに参加す
る我が国提供の消防車

プレスツアー終了後、各紙・テレビ・ラジオはツアーで収録した我が国開発協力の様子を大々的に報道しました。多くの庶民が触れるラジオ・TV・新聞各紙で我が国の開発協力事業が取り上げられたことによって、モーリタニア国民の我が国開発協力事業への理解もより一層深まったものと思います。

関連リンク（外部サイト）

プレスツアー後にリリースされたウェブ記事（アラビア語・仏語）

[سفیر اليابان يوزع معدات نزع ألغام ويزور منشآت بنواذيبو](#)

（邦訳：「日本大使、地雷除去機材を供与・ヌアディブ機関を訪問」）

[شركات يابانية تستعد لاستيراد الحديد من موريتانيا](#)

（邦訳：「日本企業、「モ」からの鉄鉱石輸入を準備中」）

[السفير الياباني: النظام الضريبي بموريتانيا يعيق الاستثمار](#)

（邦訳：「日本大使：モーリタニアの税制度が投資を妨げている」）

[Interview de l'Ambassadeur du Japon en Mauritanie, SEM Jun Yoshida](#)

（邦訳：「吉田潤駐モーリタニア日本国大使へインタビュー」）

[Japon/Mauritanie : Coopération au beau fixe](#)

（邦訳：「日本/モーリタニア：好調な協力関係」）